

学生の主体的学習に基づく ISCE を通した地域住民の『健康・自立』の延伸につながる啓蒙活動の推進

代表：杉原多公通 副代表：浅田真一

「社会」を教育の場として活用し、「学生が住民から社会性や医療人としてのプロフェッショナリズムを学ぶと同時に、住民は学生を通して大学が持っている『健康・自立』の延伸につながる有益な情報を学ぶ」、双方向の教育の方向性をもつ日本初のユニークな医療人教育を ISCE（双方向型社会連携教育：InterSocial CooperEducation）と名付けました。大学近隣の「社会」である新潟市秋葉区や南蒲原郡田上町の協力を得まして、ISCE の実践の場として2か月に1度、合計12ヶ所の公民館・町内会館・コミュニティーセンター等において『健康・自立セミナー』を開催しています。このセミナーでは、学生が予め大学において調査・学習した疾病に関する知識やその予防法を参加住民に発表すると同時に、アンケートを通して地域住民の健康状態や医療・福祉の状況に関する調査を行い、その結果を住民にフィードバックを通して、住民の『健康・自立』の延伸につながる啓蒙活動としています。2016年に始めた取り組みですが、現在も継続しており、毎回約120～260名の住民が参加しています。参加住民の66%以上がリピーター参加者であり、セミナーを受講することによって疾病予防につながる取り組みを積極的に行うようになった住民が約50%いらっしゃいました。セミナーを行っている学生は住民の医療・福祉の現状を学び、「薬剤師になったらこんなことをしたい」、「こんな薬剤師になりたい」と夢をもち始めているようです。

